

市民文芸

短歌

令和七年度
第五十四回阿南市秋季短歌大会選

入選 熱が出て何もいらぬ母ちゃんのお粥さんなら食べられるのに 三木久二子

入選 さやさやと葉擦れの音が聞こえそう夏の風受け若竹撓める 水口 明美

入選 診察を待ちて呼ばれる「6番さん」顔認証で受付するも 亀島賀陽子

入選 一株の稲穂握れば手に余る就農一年若きは笑まう 西條 悦子

入選 ひとさじのメロンの汁を飲み終えてもたれ来る娘の背なそつと撫づ 車田マサ子

入選 耳鳴りかミンミン蝉か響き合い洗濯物ははや乾きおり 新居 玉喜

入選 新米のあつあつ光る仏飯に育てし夫の汗も光れり 鹿島壽美子

入選 口元を隠しピンチのマウンドへ駆け寄る捕手に砂ぼこり立つ 森岡 圭子

入選 子に渡す田仕事多岐に渡るゆえ全てはできぬ手助けせねば 高尾 久枝

入選 競うごと親父と植えし杉苗も巨樹となりたり我も五十に 小畑 久昭

入選 先頭は女連長ヤットサーとひかがみ白く笑みをこぼして 神原 常経

入選 時かけて淹れし番茶は琥珀色に心安らぐ陽の匂いする 棚野 久子

入選 シャキシヤキとふ音がききたし房房と茶色の髭の唐黍えらぶ 浅海 弥生

俳句

阿南市俳句連合会 選

手に受けし金箔茶碗淑気満つ

河内 おと

菜の花や朝日夕陽を借景に

久米 千草

春寒し寄り添ふだけの看護あり

青木 慧

山笑う神域までの石の段

表原 清美

サバンナのふんころがしを見る日永

中川よし子

幟立つ過去帳法会の彼岸寺

鈴木 順子

うぐいすや一人となりて転籍す

宮崎三千代

青空へ桜見上げる顔寒し

小西 晴美

春光や垣根の下に老眼鏡

岡本 隆子

山笑う自動車道の渡り初め

神野千鶴子

川柳

阿南川柳会 選

笑いこそ幸運開く我が自慢

表原 節子

リハビリでゆっくり見えてきた明日

神野 鈴代

飲んだかい答えておくれ薬さん

鈴木レイ子

薬では治りませんと医者と言う

多田紀久代

溺れそう可愛い魔女の深情け

西田 修身

身のためと思えば散歩八千歩

橋本 征介

お帰りと待ってる家族居る安堵

渡邊ろまん

一般応募

爽やかな匂う若葉へ靴を履く

鳥尾美津子

君の手に乗って良かった米寿妻

泰地 重美

歌ビデオで昭和演歌を口ずさむ

福島 義明

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

雨中看花

山川 治

溪上青苔著雨柔

雨を著けて柔らかに

春鶯恰恰樹梢遊

樹梢に遊ぶ

縱然羅綺聲消去

消え去るとも

數朶野梅香氣優

香氣優かなり

送春

荒瀬左知子

落花印地惜春情

惜春の情

終日空庭聽雨聲

雨声を聴く

午枕昏昏人不到

人到らず

南軒燕返舊巢鳴

旧巢に鳴く

初夏偶成

池田 行子

初夏遠林杜宇聲

杜宇の声

庭前新樹綠陰生

緑陰生ず

風明快紫陽花發

紫陽花発く

日脚遲遲和又清

和らかくして又清し

